

京大広報

No. 476

京都大学広報委員会



完成した分子生物科学実験研究棟 一関連記事本文 872 ページ一

目 次

<大学の動き>

平成7年度大学入学者選抜

大学入試センター試験の実施…………… 871

留学生国際シンポジウム「歴史都市京都と

京都アカデミズムに育まれた留学生」…………… 871

<栄誉>

久馬一剛名誉教授が紫綬褒章を受章…………… 872

医学教育等関係業務功労者の表彰…………… 872

<部局の動き>

分子生物科学実験研究棟の完成披露と祝賀会…………… 872

平成6年度文学部博物館秋季公開展示…………… 872

一公開講座一

文学部博物館「幕末・維新と京都」…………… 873

<紹介>

独立専攻・工学研究科環境地球工学専攻…………… 873

「白馬山の家」の冬季開設…………… 875

<随想>

言葉は変わる 名誉教授 永田雅宜… 876

<コラム>

「さかいめ」について 池内 健… 877

〈大学の動き〉

平成7年度大学入学者選抜
大学入試センター試験の実施

平成7年度大学入学者選抜大学入試センター試験は、平成7年1月14日（土）及び15日（日）の両日に実施される。

このため本学では、1月13日（金）の授業が休止される。

試験の概要は次のとおりである。

1. 期日及び試験科目

1月14日（土）

外国語、数学（A）、数学（B）、理科（A）

1月15日（日）

理科（B）、国語、社会、理科（C）

2. 試験場及び志願者数

北部・本部・総合人間学部・南部の各構内
合計 7,940人

なお、今年度の西日本地区の追試験は、本学が担当することになり、疾病・負傷・交通事故等で受験できない者を対象として、1月21日（土）、22日（日）の両日に実施される。

（学生部）

留学生国際シンポジウム

「歴史都市京都と京都アカデミズムに
育まれた留学生」

京都大学と京都地域留学生交流推進協議会の主催により、10月20日（木）京都市国際交流会館において留学生国際シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは中国、インドネシア、韓国、マレーシア、ノルウェー、台湾、タイ及びアメリカから京都地域の大学への留学経験者8名（うち京大出身者は5名）を招き、(1)京都の町、伝統・文化、人々と留学生の生活、(2)京都の学風と留学生の勉学・研究、(3)留学生は京都の町や大学に何をもちたかなどのテーマを基調に、日本、特に京都で留学生活を送った意義と帰国後の活動における留学の有用性などについて講演とパネルディスカッションを行い、今後の留学生に対する大学と社会の在り方を考えようとするものであった。

シンポジウムは、始めに井村裕夫総長及び井上明俊文部省留学生課長より挨拶があり、続いて木村磐根国際交流委員長のキーノートスピーチが行われた。

元留学生による講演は、各自の経験や思い出を盛り込み、留学生の本国での役割、京都アカデミズムからの影響、欧米留学に比較した場合の日本留学の長所・短所、人的交流、予備教育の在り方など多様なものであり、また、引き続き行われた総合討論では大東留学生センター教授が座長となり多数の出席者が熱心に参加した。最後に瀬地山学生部長が本シンポジウムのまとめを行い、今後の留学生交流への取り組みに大いに益するところがあった。

シンポジウム終了後は懇親会が行われ、また、翌日の関西文化学術研究都市施設の訪問も成功裏に終わり、実りの多いシンポジウムとなった。

（学生部）



〈栄誉〉

久馬一剛名誉教授が紫綬褒章を受章

久馬一剛名誉教授（元農学部教授，土壌学）に，我が国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより，平成6年11月3日紫綬褒章が授与された。

医学教育等関係業務功労者の表彰

細井久雄技官（医学部技術部技術班長：病理学教室所属）は，医学に関する教育研究に係る補助的業務に関して，また，山田節子技官（医学部附属病院副看護婦長）は，医学に関する患者診療等に係る補助的業務に関して，それぞれ顕著な功労があったことにより，11月21日，文部大臣から平成6年度医学教育等関係業務功労者の表彰を受けた。

〈部局の動き〉

分子生物学実験研究棟の完成披露と祝賀会

このたび，分子生物学実験研究棟（鉄筋5階建，6,300㎡）が完成し，11月16日（水）午前10分30分より竣工式が挙行政され，菊池医学部長の代表挨拶のあと，建物の披露に続き京大会館において祝賀会を開催した。

祝賀会では，畑中ウイルス研究所長，本庶遺伝子実験施設長の挨拶のあと，山田 肇名誉教授の発声で乾杯。中垣 勲文部省大阪工事事務所長，事務局からの招待者，医学部（分子遺伝学・分子病診療学・分子腫瘍学），ウイルス研究所，遺伝子実験施設の教職員等関係者約100名が出席して，なごやかに歓談した。

（医 学 部）
ウイルス研究所
遺伝子実験施設

平成6年度文学部博物館秋季公開展示

文学部博物館では，11月5日（土）で平成6年度秋季公開展示を終了した。展示内容，入館者数は次のとおりである。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
9/27 ～ 11/5	尊 攘 派 の 群 像	668	272	195	424	1,559
	日本古代文化の展開と東アジア					

（特別観覧とは学術研究，視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。）

—公開講座—

文学部博物館「幕末・維新と京都」

文学部博物館では、平成6年度秋季公開展示にあわせ10月1日から29日までの間、4回にわたり土曜日の午後1時30分から4時まで、同講演室において一般市民を対象とした第15回公開講座「幕末・維新と京都」を開催した。

今回の公開講座は、本学教官2名と他大学の教官2名が講師となり、関係史料を素材として、幕末・維新変革期の政治的・社会的様相を多角的に

取り上げ、京都の歴史的な位置について解説を加えたもので71名が受講した。講義題目、講師は次のとおりであった。

品川弥二郎と木戸孝允

人文科学研究所 落合 弘樹

民衆の見た幕末・維新の京都

人文科学研究所 塚本 明

奇兵隊と『奇兵隊日記』

大阪商業大学 青山 忠正

維新期京都の教育と文明開化

京都薬科大学 鈴木 栄樹

(文学部)

<紹介>

独立専攻・工学研究科
環境地球工学専攻

京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻は、土木工学、建築学、衛生工学、資源工学の関連する分野を結集して平成3年4月創設された。

人類の諸活動の規模は、今や地球の容量を越えつつあり、地球規模での環境変化や資源エネルギーの枯渇、廃棄物の蓄積等の問題の解決を次世代に委ねかねない状況を迎えつつある。それ故、いかにして生存の基盤を整え、地球環境と調和する活動の持続的発展を可能にし、さらに進んで安全かつ健康な生活空間を創出することができるかが人類共通の重要な課題となっている。

地球規模で考察し、地域に即して活動する(Think Globally, Act Locally)ことが地球規模の諸問題を解決する基本姿勢であり、これらの課題に対して複数の工学分野を総合的に結集して開設された環境地球工学専攻は、

- (1) 地球的・地域的規模の環境変化の解明と制御
- (2) 調和のとれた環境をつくる生活空間及び活動様式の創出
- (3) 資源・エネルギーの効率的利用と再循環及び新資源の開発

等についてトータルな視点から科学的研究を進展させること、広い視野と確かな技術を身につけた

地球時代を担う技術者・プランナー及び研究者を養成することを目的としている。

当専攻は、従来の学部・大学院が一体となった教育・研究体制とは異なり、大学院のみの独立専攻で、発足時は修士課程(定員39名)のみであったが、2年後の平成5年度に博士課程(定員17名)が増設され、その陣容が整った。当専攻の構成講座は5基幹講座と7協力講座であるが、各講座の教育・研究内容を要約すると次のとおりである。

基幹講座(5講座)

- (1)環境情報工学講座：地球環境情報データベースの構築、地球環境システムのモニタリング、モデリング、最適管理等の手法
- (2)人間環境設計学講座：環境を構成する空間の評価を、人間の行動や価値観、風土との関係で把握し、広く環境と調和ある人間の活動空間を創出する方法の開発
- (3)水域環境工学講座：人間活動と水環境との相互連関の分析に基づく水環境システムの解明、水環境の保全と調和ある開発を行うための工学的手法
- (4)地圏工学講座：人間の生活・活動の場である地上及び地下空間の開発・拡大・整備並びに高度利用に関連する技術の総合的開発
- (5)都市環境安全工学講座：都市環境の安全を図るための都市計画設計理論及び人間生活活

動と危機回避

協力講座（7講座）

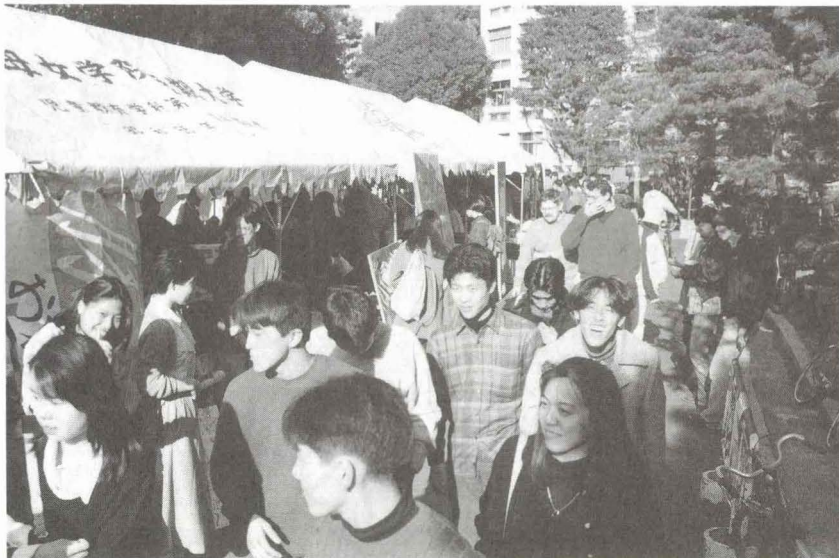
- (1)気圏工学講座：気圏環境と人間社会環境の相互作用の解明及び風災害の低減・環境整備対策
- (2)水文循環工学講座：水の循環機構を広域的・長期的にとらえ、そのシステムモデルを作成するとともに、水資源の循環利用技術の開発のための工学的的方法
- (3)資源循環工学講座：資源開発に伴う地球環境と人間活動との調和を保つために、資源並びに新エネルギー開発、資源のリサイクルリング技術・システム、分離精製技術の開発
- (4)環境リスク工学講座：環境汚染物質等が地球生態系に及ぼす環境リスクとその波及過程の分析・評価、リスクの低減策と地球環境管理の工学的的方法
- (5)環境構成材料学講座：省資源・省エネルギーの観点から、建築物や各種施設の建設・性能維持・廃棄の各段階を総合的に評価し

た、環境保全型建設材料・構造技術の開発

- (6)居住空間工学講座：地球上の多様な地域環境を構成する人間居住空間について、住居・都市・地方生活圏の総合的計画、土地利用と景観保全、住宅開発等
- (7)微量汚染制御工学講座：微量な人工化学物質や天然物資が、人間や生態系に与える有害な影響を、生物モニタリング法を開発して検知評価し、その影響のプロセスの解明と制御技術

環境地球工学専攻の研究・教育の主目的は、新しい地球時代に即した人類の生活基盤の再構築であるので、従来の研究・教育の枠組みを越えた各講座間の横断的な大ゼミナール等を実施して、巾広く知識を収集し意見を交換するなど鋭意努力している。しかし、その研究内容が非常に多岐にわたるため関連教室のみならず広く自然科学系の研究機関との交流を深め、地球環境問題の解決に貢献したいと念願している。

（工学部）



11月祭で賑う本部構内

「白馬山の家」の冬季開設

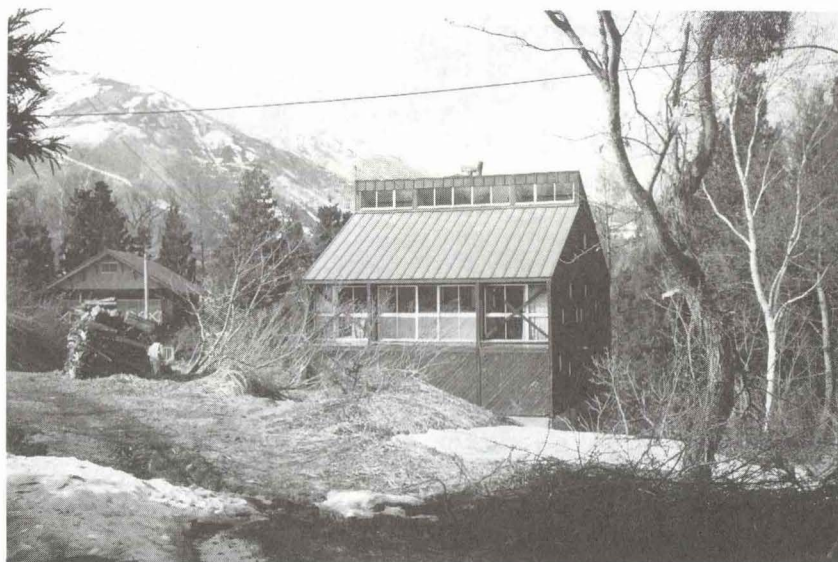
本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今冬も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つがいけ}樽池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、積雪量も多く、雪質の良さとともにスキーには絶好の条件を備えており、初心者向きから上級者向きまで各種のゲレンデがあります。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階、地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくぼ}白馬山の家（電話 0261-83-2405）
2. 所在地 ^{あずみ おたり ちくに}長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳久保乙 869の2
（交通機関）
JR大糸線「白馬大池駅」下車，松本電鉄バス「^{おや はら}親の原」下車，徒歩約20分
3. 開設期間 12月20日（火）～1月10日（火）並びに2月20日（月）～4月10日（月）
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料 120 円，ほかに食費，暖房費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細は，体育会事務室（西部構内総合体育館内，電話学内2574）に照会してください。
7. その他 当施設には，駐車場がないため，自動車での利用は避けて下さい。



（学生部）

